

1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0872001201
法人名	有限会社 弥久
事業所名	グループホーム 幸寿苑
所在地 (電話番号)	茨城県つくば市磯部15番地 (電話)029-867-7651

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年3月7日	評価確定日	平成20年7月15日

【情報提供票より】(平成20年2月7日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 23 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	12.5 人

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,500 円	その他の経費(月額)	61,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1500	円

(4)利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名	
要介護1	1 名	要介護2	6 名			
要介護3	4 名	要介護4	4 名			
要介護5	3 名	要支援2				
年齢	平均	80.8 歳	最低	55 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	坂入医院 ホスピタル坂東 筑波記念病院 石浜歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家庭的な環境と暖かさの中でケアをしていきたいとの代表の考えで設立された当ホームは、筑波山の麓に立地し自然環境に恵まれ、利用者がゆったりと思いの生活を楽しんでいる。オーナーが医師であるため医療との連携は24時間体制が取れている。地域住民、シルバー会の人々との交流会を開催しホームに対する理解を深めてもらえるように積極的に働きかけている。管理者、職員共にケアに対する向上心が高く、家族からの信頼も厚い。職員、利用者の関係も非常に良好で笑いの絶えないホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の改善課題として、『具体的な介護計画、見直し、周辺施設への協力要請』であったが、その後職員会議を行い、改善に向け取り組んだ事が関係書類等からうかがえた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価に対する目的、意義は職員に伝え皆さん理解をしている。自己評価は全職員で行い、改善点がないか等、日々のケアを更にレベルアップする機会と捉えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度、代表取締役、管理者、ユニット長、利用者家族、利用者、民生委員、行政のメンバー構成により開催し、会議内容は記録に残して職員会議で報告している。意見等はサービスに活かすように努めている。前回の評価に関しては運営推進会議にてその内容を報告をした。全家族に対し会議の参加よびかけ、会議内容の報告をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の近況報告を毎月、手紙で知らせている。状況変化時には電話にて報告している。面会時に家族の意見等を聞くように心がけている他、運営推進会議の参加呼びかけの時、意見、要望が記入できる欄を作り、返信してもらっている。意見等が出た場合はすぐに対応し家族への不安解消に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣住民に散歩中挨拶をしたり、立ち話をし利用者にとっても普通の生活スタイルで地域にかかわっている。ボランティアの受け入れの他ホーム主催の交流会を地域住民、シルバー会メンバーで開催していて、夫々を楽しんでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『安心感、自主決定、家庭的な環境の提供』、『地域に対して開かれた施設』とわかりやすい理念を代表、法人職員、ホーム職員で作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、事務所等見やすい場所に掲示し、管理者、職員間で共有し理念の実践に向けて取り組んでいる。特に復唱等はしていないが職員夫々が利用者に対し尊敬の念を持ってケアに当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の散歩の時に挨拶をしたり、ボランティアの受け入れを行っている。地域住民、シルバー会との夏祭り、昼食会等を開催し地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価結果については全職員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。評価の意義は管理者から職員に伝え理解している。自己評価は全職員で行い、改善点があるか等話し合った。職員との聞き取りから評価が活用されていることが分かった。前回の外部評価の改善点は全て改善されていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、代表、管理者、ユニット長、行政、利用者家族、利用者、民生委員参加の下、会議を開催し、職員に対しては苑内会議にて報告し、議事録に残している。また全家族に対し郵送にて運営推進会議への参加の呼びかけを行い、会議内容も郵送にて報告している。前回外部評価は運営推進会議で報告した。		

茨城県 グループホーム幸寿苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回のつくば市地域密着型サービス連絡会に行政も参加し意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。行政には頻繁に相談に行き、関わりを密接にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用者の状況を手紙で知らせている。状況変化時はその都度電話にて家族へ連絡し、連絡内容はケース記録に記入している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項に『苦情窓口』を表記している。玄関に目安箱を設置し家族に対し意見の吸い上げに努めている。運営推進会議に向けて家族の意見、要望を引き出すために返信封筒をいれて記入してもらうようにしている。家族会を7月に発足予定。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどないが、退職の挨拶は利用者の状態に応じた説明を行っているので、利用者の混乱もない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症高齢者対応マニュアルを管理者が作成し、全職員に周知している。苑内研修、職員会議を夫々毎月開催し、ケアの向上に努めている。外部研修は職員の段階に応じた研修に参加できるように支援している。受講後は報告書を作成し、職員会議等で伝達している。職員の聞き取りからも自分の希望する研修には参加できるとの事であった。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回のつくば市地域密着型サービス連絡会に参加し意見交換を行い、サービスの質の向上に努めている。連絡会参加後は職員会議時に報告し共有している。年4回開催される他事業者の事例発表勉強会に職員2名ずつ順番に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	以前は体験入居を行っていたが、現在は空き室がないので行っていない。入居前に家族、利用者にホーム内を見学してもらい、雰囲気を感じてもらい利用者が納得の上入居できるように配慮している。併設のデイサービスを利用してから入居する利用者も居る。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として昔の風習、戦争の話、料理の味付け等沢山教えてもらう場面があり、職員はその都度、感謝と尊敬の気持ちで利用者へ接し共に共感し支えあっている。調査の中でもそのような場面が多々あり、笑いの絶えないホームであった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から出てきた利用者の希望、意向を受け止め、それに向けた支援を行っている。意思表示の困難な利用者には選択するような話かけをし、その時の表情から思いを察知している。管理者、職員は『その人の立場にたって』思いや意向を常に考えていることが聞き取りからも伺えた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートを用い、利用者、家族の希望を取り入れ、看護師、ケアマネ、計画作成担当者、職員とカンファレンス会議で話し合い、夫々の意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に対し1ヶ月間の評価を実施し記録に残し、見直しを行っている。状況変化が生じた場合は現状に即した計画を関係者と話し合い新たな計画を作成している。年間見直し計画表を作成しもれのないようにチェック体制を整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスの利用者との交流、医療機関との24時間協力体制、受診支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者、家族の希望にて決めている。毎月2回の定期往診があり協力医院との連携は密である。職員の中に看護師がいるので利用者の身体の異常は発見でき対応ができる。かかりつけ医に受診時は職員が付き添い家族には電話で結果を報告している。ケース記録に記述あり。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に重度化した場合の対応に係る指針を渡し説明している。同意書も作成している。過去ターミナルを経験し職員は不安もあったが、最後は充実感と家族からの感謝の言葉をうけ、やりがいがあったと職員から聞いた。	○	職員は利用者、家族の希望があれば積極的にターミナルケアを行って行きたいとの意向であるので、指針の内容に添えるように更なる勉強会をホーム全体で重ねて、益々のケアに努められるように期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー確保のマニュアルを作成し、全職員それに沿った支援をしている。記録等は事務室にて管理している。面会時の職員との話し合いは居室、事務室にて行っている。居室入り口のネームプレート等個人情報に関しては同意書をとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、利用者一人ひとりのペースに合わせた生活の支援をしている。入浴、起床、食事時間帯は利用者本位である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が利用者の世話をしたり、料理、配膳、テーブル拭き、下膳と職員と共に行い、同じテーブルで会話を楽しみ笑いの絶えない食事風景であった。エプロンに関しては利用者から洋服を汚したくないといった希望があり、利用者が必要と感じているのであえて外したりはしない。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により毎日入浴支援をしている。時間帯も夜間帯以外は利用者の希望を聞いて支援をしている。また普通の浴槽に入浴困難な利用者には併設のデイサービスの機械浴を使用し、苦痛なく入浴できるように支援している。季節に応じ菖蒲湯、ゆず湯を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事、園芸、洗濯、掃除等、利用者の生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。布草履、チラシを活用したゴミ箱作りなどを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩や買物に出かけ、気分転換をはかっている。散歩で顔なじみになった近所の方から野菜をもらったり、手作りおやつ等をおすそ分けで持っていくときもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の窓は全開にしてあり、玄関も日中施錠はせず、職員が常に利用者の状況を把握し、外出傾向がある利用者に対しては特に注意し見守り、ストレスを感じないように支援している。利用者が外出してしまったときは近所からの協力を得られるようになっている。交番にはパトロールを依頼済みである。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導で年2回の避難訓練を利用者参加で実施している。消防訓練の実施記録もあり、マニュアル化されている 緊急対応としナース～Dr坂入へと指示を仰ぐようになっており、連絡網も整えられている。倉庫に備蓄品として、スナック類、缶詰を保管している。	○	調査翌日の夜中にやや大きな地震があったように、いつ起きるか分からない災害への対応として、夜間想定の実施をされたい。運営推進委員会で近隣の区長に協力要請をされてはどうか。備蓄品の中に飲料水がなかったので、まず飲料水は必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昨年の調査で栄養カロリー面での指摘があったので本を購入し、カロリーについて勉強し、週1度、利用者個々のカロリーを計算している。医師、看護師指導の下、摂取量、水分量はチェックシートに記入し一人ひとりに応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光はない。リビングにソファ、テーブルが設置され、畳のコーナーにはコタツを設置し利用者が思い思いにくつろいでいる。お天気のよい日はウッドデッキにてのんびり外気浴を楽しんでいるとのこと。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者愛用の椅子、鏡、テレビ等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮された居室となっている。		